

製品名: ASPP1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07229**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:50-1:200, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:10000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	PPP1R13B ASPP1 KIAA0771
別名	Apoptosis-stimulating of p53 protein 1 (Protein phosphatase 1 regulatory subunit 13B)
遺伝子 ID	23368.0
SwissProt ID	Q96KQ4
免疫原	アミノ酸配列範囲 630~680 のヒトタンパク質からの合成ペプチド

背景

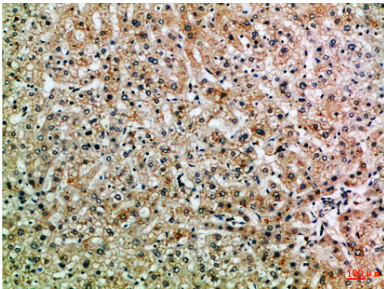
この遺伝子は、p53 相互作用タンパク質である ASPP (p53 のアポトーシス刺激タンパク質) ファミリーのメンバーをコードしています。このタンパク質は、4つのアンキリンリピートと、タンパク質間相互作用に関与する SH3 ドメインを含みます。ASPP タンパク質

は、p53ファミリータンパク質によるアポトーシス誘導に必須です。ASPPタンパク質は、アポトーシス促進遺伝子のプロモーター領域におけるp53ファミリータンパク質のDNA結合と転写活性化を促進します。この遺伝子の発現は、E2F転写因子によって制御されます。[RefSeq提供、2008年7月]、疾患:PPP1R13Bの欠陥は乳がんの原因となる可能性があります。乳がんを患い、野生型のTP53タンパク質を発現している多くの患者で過剰発現しています。、ドメイン:アンキリンリピートとSH3ドメインは、TP53との特定の相互作用に必要です。、機能:p53/TP53との相互作用を介してアポトーシスの制御において中心的な役割を果たす調節因子です。生体内でのアポトーシス促進遺伝子のプロモーターに対するTP53のDNA結合およびトランス活性化機能を増強することにより、TP53を制御します。、その他:正式な遺伝子名とは異なり、これはタンパク質ホスファターゼ1の制御サブユニットではありません。この名前は、タンパク質ホスファターゼ1に結合するタンパク質との類似性から付けられました。、類似性:ASPPファミリーに属します。、類似性:1つのSH3ドメインを含みます。、類似性:2つのANKリピートを含みます。、細胞内位置:主に細胞質内。一部の部分は核内に存在する。、サブユニット:TP53と相互作用する。、

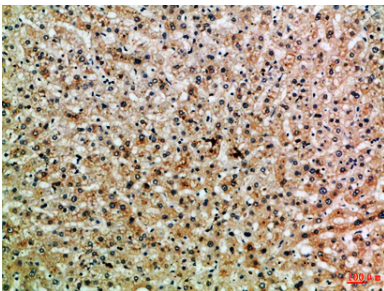
研究分野

-

画像データ



パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析、抗体は1:100に希釈された



パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析、抗体は1:100に希釈された